

高活協通信(2023年10月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

○今月の“「定年後の仕事」情報欄”は、“連載「定年後の仕事はジョブ型」”の第3回目です。

○高活協通信「今月の一冊」は、「^{ひとつばしきりこ}一橋桐子(76)の犯罪日記」です。

○高活協ホームページを更新しました。

・「高活協ホームページ」のURLは以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2023年9月の主な活動

○高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を停止しております。ただし、少人数の会議・イベント等、あるいはZOOM等を利用したオンラインの会議・イベント等は適宜実施しております。

○2023年9月6日、公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主催の交流会に参加し、複数の高齢者就業支援団体と情報交換を行いました。

○2023年9月7日、高活協の正会員(法人会員)との会合を行い、今後の高活協の運営方針などについてご意見、ご要望などを伺いました。

○“「定年後の仕事」情報欄”では、「定年後の仕事はジョブ型」を連載しています。

○高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信(2023年9月号)」を掲載しました。

○2023年9月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてートピックス◆◆◆」のコーナーでは、“「定年後の仕事」関連情報”を適宜掲載していきます。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.agenomics.org/>

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて - トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■ちょっとした話 - 「日本版 O-net」の有効活用による労働移動の活性化に期待

岸田政権が掲げる新しい資本主義の具体的中身がよくわかりませんが、どうやらリスキリングによる労働移動の活性化が一つの鍵を握っているような気がします。年功賃金と終身雇用を特徴とするメンバーシップ型と呼ばれる雇用制度が浸透している我が国では、これまで労働移動は内部労働市場、すなわち企業内人事異動が中心で、転職等を促す外部労働市場はあまり活発ではありませんでした。そこでリスキリングや日本型職務給の導入などによって外部労働市場を活性化させ、成長産業への労働移動を促すことによって我が国全体の生産性向上を図ろうとする動きが出てきているように思われます。

そして外部労働市場活性化を後押しするツールとして、日本版 O-net が注目されています。2020 年頃からサービスが開始されているようですが、求職と求人のマッチングをより円滑に進めるための検索システムで、米国の O-net を参考にして開発されたとのこと。厚生労働省の職業分類をベースに、職業・職種の分類や内容、必要なスキルや適性など様々な検索機能が備わっており、日本版 O-net を有効活用することによって、外部労働市場活性化の一助とする試みではないかと思われます。

■「定年後の仕事」情報欄

○2021 年 4 月から施行された改正高年齢者雇用安定法(=70 歳就業法)では、定年後の継続雇用だけでなく、継続的な業務委託や社会貢献活動への支援といった措置も選択肢になっており、高齢者の多様な働き方を後押ししています。

○今後このトピックスのコーナーでは、「定年後の仕事」に関連した情報を適宜掲載していきます。高齢者の就業を考える際の参考にしていただければ幸いです。

少し古くなりますが、高齢者就業を巡り高齢者の特性と就業の実態の間に 3 つのミスマッチが存在することをアンケート調査によって明らかにした研究があります。研究内容は報告書“NIRA モノグラフシリーズ

No.40(2016.08)「職業特性と高齢者特性」で公表されており、以下にその一部を引用させていただきます。

1つ目は職務活動のミスマッチ

高齢者は、力を発揮することができる職務活動を重視する職業で多く就業しているわけではなく、むしろ、高齢者には不向きとされる職務活動を重視する職業に多く従事している。これは、高齢者の就業が、得意なことよりも不得意な職務活動に偏っている傾向があることを意味する。

2つ目は職務環境および人柄・個性のミスマッチ

高齢者の職務環境への適応能力は、基本的には高く評価され、また、職務に必要な人格や個性についても就業上の支障はないと評価されている。しかしながら、ここでも、高齢者の就業は、その特性を生かしたものとなっておらず、むしろ高齢者の適応が難しいとされる職務環境となっている職業での就業が多いという実態があった。

3つ目は、働いている人自身が、自らの職業における経験や専門知識の重要性への認識・評価が総じて低く、年齢に伴う経験や知識の蓄積が全体的に軽視される傾向にあるというミスマッチ

これは高齢者の特性というよりも経験や知識への認識の問題であるが、現実として高齢者の就業は、高齢者が優位性を発揮しやすい経験や専門知識を生かすことを意図したものにはなっていない。

引用させていただいた上記の3つのミスマッチが解消に向かえば、高齢人材の就業のあり方も大きく変わり、社会を支える労働力としての期待も高まり、高齢者もよりいきいきとした働き方を実現することができると思われます。しかし NIRA の報告書が公表されてから 7 年以上たった現在、高齢者の就業率も大いに高まっていますが、ミスマッチの実態はそれほど改善されていないような気がします。

定年後の就業におけるミスマッチの解消にはジョブ型への意識変革が必要

我が国の多くの企業はメンバーシップ型雇用制度を採用してきたため、自身の職務内容や職務遂行に必要なスキルは何かを明確に意識しながら仕事をする習慣が弱かったことが、定年後の就業におけるミスマッチに影響しているように思われます。

我が国では定年でメンバー(正規)から外れ非正規となる高齢者が大半で、そういった高齢者が就く仕事こそ、職務内容と職務に必要なスキルを明確にしなければならないジョブ型のはずです。しかし定年後も相変わらずメンバーシップ型の意識のままで仕事に就く高齢者は多いようで、ジョブ型への意識変革ができないことがミスマッチの大きな要因になっているのではないのでしょうか。

ジョブ型への意識変革はジョブを知ることから始めよう

そもそもジョブ型を語る前に、高齢者は定年後の就業において、自分がやりたいジョブ、自分が力を発揮できそうなジョブにはどんなものがあるのかを知らなければなりません。それを把握するための検索システムがあると便利でしょう。

先の「ちょっとした話」欄で述べた職業・職種検索システム「日本版 O-net」は強力です。しかし問題は、日本版 O-net があくまで現役世代を主な対象として設計されている点ではないかと思われます。もちろん日本版 O-net には、定年後に高齢者が非正規となって就く(小さな)ジョブも含まれてはいますが、あくまで入社を前提とした就職や転職を念頭に置いて設計されているような気がします。

定年後の高齢者就業は、必ずしも入社することが前提ではありません。要は自分ができそうなジョブ、自

分がやりたいジョブを探し出し、そのジョブに就ければよく、就業の仕方はパートやフリーランス、あるいは短時間勤務でも構わないわけです。

日本版 O-net は、定年後の高齢者が就けそうな(小さな)ジョブを検索するシステムとしては少し重量級すぎるような気がします。しかし、今のところ定年後の高齢者就業専用の本格的ジョブ検索システムは存在しません。日本版 O-net をベースとしながらも、もう少し簡易で小さな仕事、小さなリスクリングも意識した検索システムがあると、定年後の高齢者就業を主な対象とした外部労働市場の形成を後押しするようになると思われます。

◆◆◆読み物コーナー◆◆◆

■今月の1冊

人生 100 年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書 名：^{ひとつばしきりこ}一橋桐子(76)の犯罪日記

著 者：原田 ^かひ香

出版社：徳間書店(徳間文庫)

(URL <https://www.tokuma.jp/book/b609659.html>)

定 価：814 円(税込)

今回は、高齢の女性が活躍する小説を紹介します。ベストセラー『三千円の使いかた』の著者・原田ひ香さんの『一橋桐子(76)の犯罪日記』です。タイトルだけ見ると、高齢者が主人公の犯罪小説のように思われるかもしれませんが、適度なユーモアを織りまぜながら、家族や住まい、仕事といった、超高齢社会の現実の厳しさを映し出した長編小説と言ったほうが良いのではないかと思います。なお、この小説を原作としたドラマが、昨年、NHK で放映されたので、ご覧になった方もいるでしょう。

主人公の一橋桐子さんは、76 歳となったいまも、清掃のパートとわずかな年金で生計をたてています。両親の面倒を見るために結婚をあきらめ、介護離職してからは正規の仕事に就くことができなかったため年金はわずかばかり、十分な蓄えもありません。追い打ちをかけるように、同居していた親友が病を得て亡くなり、まさに天涯孤独の身になってしまいます。「このままでは、いずれは孤独死してしまう」と絶望にさいなまれていたときに、テレビ番組で高齢の受刑者が刑務所で介護されながら過ごしている映像を目にします。「人に迷惑を掛けない老後はこれだ」と、刑務所での介護に光明を見出し、少しでも長く刑務所に入っていることができる犯罪を模索するというのがこの小説の骨子です。

お話は、桐子さんが刑務所に入るために、「第一章 万引」、「第二章 偽札」、「第三章 闇金」、「第四章 詐欺」、「第五章 誘拐」、「最終章 殺人」と展開しますが、血なまぐさい事件は起こりません。むしろ、各エピソード

ソードに盛り込まれた、高齢者が賃貸住宅に入居できない現実、清掃のパートを、年齢を理由に突然打ち切られる就労問題、高齢者の結婚をめぐるトラブルなどが印象に残ります。結局、桐子さんは刑務所には入ることができませんでしたが、その代わり、これまで誠実に生きてきた証として、一筋の希望の光を得たところで、お話は幕を閉じます。

(特別会員:坂巻 大)

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』のご紹介

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が発行する高齢者雇用の総合誌「エルダー」に関する情報は、下記の URL からご覧いただけます。

[啓発誌「エルダー」 | 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 \(jeed.go.jp\)](http://jeed.go.jp)

◆◆◆ ◆◆◆
配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第 6 葉山ビル 4 階

TEL: 03-6555-3926 HP: <http://www.agenomics.org>
